

ある小学六年生の作文がある。

「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。

そのためには中学、高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようにするためには練習が必要です。僕は三歳の時から練習を始めています。三歳から七歳までは半年くらいやっていましたが、三年生の時から今までは三百六十五日中三百六十日は激しい練習をやっています。

だから、一週間で友達と遊べる時間は五、六時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、その球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズです。ドラフト入団で契約金は一億円以上が目標です。僕が自信のあるのは投手か打撃です。

去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会四試合のうちホームラン三本を打ちました。そして、全体を通した打率は五割八分三厘でした。このように自分でも納得のいく成績でした。そして、僕たちは一年間負け知らずで野球ができました。だから、この調子でこれからもがんばります。

そして、僕が一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って応援しても

## ●特集●夢を実現する

らうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は野球選手になることです」

作者は愛知県西春日井郡とよなり小学校六年二組鈴木一朗。賢明な読者にはすでにおわかりだろう。いまをときめく大リーガー、イチローの子ども時代の作文である。

イチローの資質は特別、いわば天才という。その通りだろう。しかし、この作文が夢を実現する上で大事なものは何かを語っていることも事実である。

まず、第一に自分の夢に対していささかも迷いがない。夢を素直に信じている。つまり夢に対して本気、本腰である。

次に、自らの夢に対して代償を進んで支払おうとする気持が強い。三百六十五日中三百六十日激しい練習。友達と遊ぶのは一週間で五、六時間という。素晴らしい言葉に少しの悔いも未練もない。「夢をみることは重荷を背負うことだ」と松下幸之助氏はいったそうだが、そのことをすでに体得している感がある。

そして最後に、お世話になった人に対して報いるという報恩の心を持っている。

夢を持ち、その夢を実現すべく燃えることができるのは、全生物のなかでも人間だけである。天から授かったこの能力をふるに発揮する人生を送りたいものである。